

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和4年度第1回松阪市総合教育会議
2. 開 催 日 時	令和4年12月20日(火) 15時~16時15分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 第2分館 教育委員会室
4. 出席者氏名	出席委員 竹上真人市長、中田雅喜教育長、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員、服部美由紀教育委員、松江茂教育委員 事務局 岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川経営企画課政策経営係長、刀根教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、尼子教育総務担当参事、北島教育総務課政策担当主幹、金谷学校教育課長、坂口学校教育課指導主事、竹内学校教育課指導主事、若山スポーツ課長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2人(内、報道関係2社)
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・協議事項

- 1) 部活動の地域移行について

◎内容録は別添

令和4年度 第1回松阪市総合教育会議議事録

開催日時：令和4年12月20日（火） 15時～16時15分

開催場所：松阪市役所 第2分館 教育委員会室

出席委員：竹上真人市長、中田雅喜教育長、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員、服部美由紀教育委員、松江茂教育委員

事務局：岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川経営企画課政策経営係長、刀根教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、尼子教育総務担当参事、北畠教育総務課政策担当主幹、金谷学校教育課長、坂口学校教育課指導主事、竹内学校教育課指導主事、若山スポーツ課長

傍聴者：2人（内、報道関係2社）

・市長あいさつ

みなさんこんにちは。今年度初めての総合教育会議で、松江委員はご就任いただいて初めて、長井委員はこれで最後の会議になるかと思います。来年度予算を編成する時期ですが、R4 予算でひとつ良かったことは、不登校対策で配置した人員がコロナ対策にもなった。また、今年はまる2年間ご議論をいただいて学校規模適正化の答申が出ました。教育委員会の方では答申を受けていろんなご検討をいただいているところかと思えます。今日の議題は「部活動の地域移行について」。これも大きな問題であり、全国市長会で問題提起をされている議題でもある。スポーツ庁がうちだした教員の働き方改革の一環で、スポーツの指導について休日は地域でもらおうというもの。全国では市長が反対表明を行っているところもある。そのため、この議題に関して皆さまのご意見をお聞きしたいと思い、選ばせていただきました。もう一つは、おかげさまで18日にみえ松阪マラソンが無事に終了した。市民のみなさんからは、交通渋滞の話から好意的な話までいろんな意見をいただいている。ランナーの皆さんからすごく好評だったのは、トンネル部分でのプロジェクションマッピングでした。特に優勝した川内さんは、トークショーの中で、「600回くらいマラソンを走っているが、トンネルは暗くて、寒くて、寂しい場所だが、初めてのプロジェクションマッピングで子どもたちの歓声とともに映像が流れて、とても勇気づけられ、後半の走りに力が入った。」と好評価をいただいた。我々としても力を入れた部分だったので、そうした評価はありがたかった。後ほどマラソンについては報告をさせていただきます。本日はその2点で皆さまのご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【松阪市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、竹上市長が議長となり進行】

1. 部活動の地域移行について

事務局)

まず国や県内の状況、また課題についてご説明します。部活動はこれまで生徒のスポーツに親しむ機会を確保し、自主的で主体的な活動を行い、達成感を獲得、学習意欲の向上、責任感や連帯感の涵養に資するとともに、自主性の育成に寄与するものとして大きな役割を担ってきた。一方で、近年持続可能性という面でその厳しさを増しています。さらに中学校等の運動部活動においては、競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も運動部活動の指導や大会への引率、運営への参画が求められる等、教師にとって大きな業務負担となっています。このようななか部活動の地域移行について議論が高まってきました。追加資料の1ページで、平成29年度に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、令和2年度に「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」がスポーツ省から6月に出されました。それが追加資料の2ページになります。学習指導要領の中では、「人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場」とありますが、その中に「指導経験の少ない教師の多大な負担」や「教職員の長時間勤務の要因であること」などの課題や方向性が出てきました。3ページにあるように、令和4年6月6日に「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」がスポーツ庁から、6ページにあるように、8月9日に「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」が文化庁から出されました。提言の中にはめざす姿として、少子化の中でも子どもたちがスポーツや文化に継続して親しむことができる機会や多様な体験機会を確保する、ということが挙げられています。運動形態の導入パターンについては、追加資料「格好部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像(案)」にあります。「休日の地域クラブ活動」の中に運営団体・実施主体として地方公共団体や多様な組織・団体といったパターンが国からは例示されています。県内の市町の取り組みについては、10月末現在、各市町は検討委員会などの協議会の設置をしているのが2市町、本年度設置予定が1市町で、まだ取り組みは少ない状況です。先進的に取り組んでいる菰野町の取り組みと四日市市の取り組みについて説明します。菰野町は2中学校で取り組んでおり、運営団体は総合地域スポーツクラブ「元気アップ菰野スポーツクラブ」で、菰野中の3つのクラブ、ハンドボール、男子バレー、陸上競技に指導者を派遣している。四日市市は22中学校の内のいくつかの中学校で、総合型地域スポーツクラブ、拠点型、学校単位の3つの方法で地域移行に取り組んでいます。例えば拠点型については、楠中学校に楠スポーツクラブから指導者を派遣している。例えば3つの学校の生徒が、土日どちらかだけ一緒に集まってする活動が拠点型と言われるもの。このように今のところ取り組んでいるところはまだ少ないが紹介をさせていただきました。そのようななか部活動地域移行に係る課題として、①運営と活動という面、②組織づくり、③指導者の確保、④経費等が挙げられます。例えば運営活動については、学校と地域団体が平日と休日の活動を連携して、指導の一貫性を保つ体制を構築する必要があります。組織づくりについては、地域に広げた取り組みになることから、関係部局の団体や、体育協会などと協議する必要があります。専門性や資質を有する指導者等については、四日市市や菰野町でも、人数の確保

に大きな課題がある。経費については、学校の施設を利用する場合のルール作りや、保護者や子どもたちの負担のことが課題として挙げられます。

市長)

資料について説明がありました。皆さまにはご質問や意見等をいただきたいと思います。

委員)

先日、教育長代理という肩書きで出席した会議で、どの県の方々もこの問題を口にされており、その場でも皆さんの問題提起を聞かせていただいたが、それぞれの地域で事情が違うので統一した答えは出ずその場は終わったが、大きな問題と思う。土日の指導がなくなり、それに代わるものにも参加できない人もでてくるとなると、これまで参加できていた子供たちが運動できるような場を確保していかないと、運動離れがすすむので、そうしたことも考えていただきたいと思います。

市長)

保護者負担の話が出ていなかったのので、事務局からご説明いただけますか。

事務局)

保護者負担について。基本的には受益者負担になるので、土日スポーツクラブとした場合、1か月何千円程度かかります。菰野町や四日市市は1か月2~3千円、年間で3万円くらいの負担になります。

市長)

部活動の地域移行には費用の話があり、大きな課題となっている。

委員)

地域移行となると、スポーツ離れが進む。またお金に余裕がある家の子しかできず、部活を選ぶことすらできないという懸念がある。共働き家庭など、子どもたちが一人でいる時間が長くなってしまうということもあるのではないか。

市長)

現場に近いところで、実際部活動をしている時間はどうか。平日は部活動を行い、土日も出てきて大会などに出るとなると、かなり時間はかかる。そのため教員の働き方改革が言われるようになってきたと思うが、逆に子供たちの時間がということになる。実際子どもたちは1週間でどれくらいそこに力を費やしているのかわかりますか。

事務局)

現場に居た教職員としての意見で。部活動ガイドラインがあり、平日は2時間以内となります。5日間のうち1日は休みを取る必要があるので4日間クラブを2時間ずつ行い

ます。土日のどちらかは活動しても良いとなっており、それが4時間以内。合計すると12時間が週の活動時間となりますが、日曜日に大会がある場合などは、土曜日に練習しないとケガをすることもある。その時はガイドラインに沿って、例えば土曜日に4時間練習して、日曜日に1日大会に出場し、翌週は休むなどしている。

市長)

かなりの時間を費やしている。部活をめあてに学校に来ている子どもたちも居ることかと思う。

委員)

今回の部活動の地域移行に関しての一つの大きな課題は指導者の確保ということがあります。一言で指導者と言っても、色々な視点をもっていないといけない。教員というものは、技術指導は弱いが、教育的指導は上手に考えてやってくれる。逆に、地域の方には専門的な技術を持っている方は居るんでしょうけれども、人間的な、教育的な指導ができるとは限らない。一例としてJリーグの監督がパワハラで解雇されることもままある。こうしたトップクラスでも教育的な指導がしにくいという状況で、良い指導者を確保できるのかということに疑問に思う。

市長)

指導者の資格のようなものは決まっているのですか。

事務局)

特に資格はない。例えばソフトボールの少年団があっても、ソフトボールの指導者の資格はありません。ただスポ少の講習などは受けています。学校の教師についてはそういった資格はなく、教師個人の過去の経験で指導しているケースが多い。

事務局[スポーツ課])

現状は資格等がなくても少年団の運営がある程度できたが、次年度より従来の日本スポーツ少年団の指導者制度が改定され、よりスポーツ少年団の理念を学んだ者が少年団の運営を行うという方向に変わってきている。つまり勝利至上主義とか、子どもたちをどう育てていくか、指導していくかということ学んだうえで指導者になるということ。このように次年度以降大きく変わる。それは同時に登録料や講師費用などの費用負担が少年団にかかってくることになり、それも課題となります。

委員)

いま議論しているのは土日についてのこと。新聞で読んだ程度だが、いずれ完全に地域移行していくというのが国の方針なのですか。

事務局)

国は来年 R5 年度から改革集中期間として移行期間を設けているが、R8 の完全移行を目標としている。しかし他市町の状況を聞くと、例えば菰野町は町内に 2 中なのでやりやすく機能するかもしれませんが、松阪市の場合は東西に広域という課題がある。自治体の規模によってもやりやすかったりやりにくかったりすることがある。

委員)

土日だけの移行なのか、全部移行なのかによっても大きく意見が違ったりすると思う。

市長)

私はとりあえず土日の話と聞いているが、もともとは言われるように、教職員が専門的な指導ができないという課題があり。最終的には、部活の指導は地域移行をしていくということになると思うが、明確にはまだ示していない。根本的な問題は、部活動は教育か否か、ということになると私は思います。部活動が教育なら、委員が言われたように、指導者は、勝つためではなくその子を成長させるために指導し、スポーツはその方法となる。スポーツを通して人間形成をしていくのが究極的な目標ではないのか。教育であるなら教育機関がするべきではないかとも思う。この話は、教員が部活の担当者になると休みなしになる、というのが話の始まりなので、どこで折り合いをつけるのかというのが元になるかと思う。今、国からは資金の補填の話だけなので拙速ではないかという印象。では、松阪市の現状と地域移行で大切にしていきたい事項について説明をお願いします。

事務局)

松阪市の現状としては、あまり進んでいませんが、学校教育課を中心に昨年と今年、先進地視察をしました。多治見市では保護者が中心となり地域と学校が連携した部活の地域移行をしています。長岡市は拠点型方式と部活動単位方式というものを取り組んでいます。部活動単位方式というのは、中学校の部活がそのまま土日も活動し、指導者が変わるという方式です。松阪市としてはそれぞれの良さを活かして取り組んでいきたいと思っています。また例えば松阪市に近い人口や学校数のところなども参考にしていきたいと思っています。さきほどご紹介した提言等も関係部局や各学校とも共有しています。部活動の地域移行で大切にしていきたいこととして、教育委員会として、これまでの部活動は生徒が運動や文化に親しむ機会を確保して、自主的、主体的に、参加できるというところ、また子どもたちの学習意欲や達成感や責任感、連帯感、自主性にも寄与しているという面を大切にしていきたいと考えています。また今までは学校教育の一環として行われている部活動というのは、異年齢の生徒同士や、教師と生徒の人間関係の構築、生徒自身が自己肯定感を高めるなど、教育的意義だけでなく、生徒の状況把握、意欲向上、問題行動の発生抑制など、学校以上の意義があります。さらに生徒や保護者からの学校への信頼感を高め、学校の一体感や愛校心を高める面もあります。何よりも子どもたちがスポーツや文化の楽しさや喜びを味わって、生涯にわたってスポーツライフを継続する資質、能力の育成や、体力向上や健康の増進につながります。こうしたところを地域

移行においても引き続き大切にしていきたいと考えています。

市長)

現状や、松阪市や教育委員会として大切にしていきたいことを説明いただいた。ご質問や感想などあればお聞かせください。

委員)

先進地視察で多治見市と長岡市に行かれたとのことですが、資料4にもあるようにさまざまな運営形態があるが、現時点では難しいかもしれないが、おおまかに松阪市としてはどのような形を考えているのか。

事務局)

やはりいろんな形があり、県外の事例だけでなく既存のところでも「社会体育」という形で協力して取り組んでいただいているところもあります。例えば嬉野中学校の剣道部であれば、剣道連盟と連携していたり、鎌田中学校では、野球部が部活動指導員を入れている。鎌田だけでなく、教育委員会として指導者がいない場合は交通の、部活指導員を1時間1,590円で派遣したりしています。松阪市の特色としては、まず東西に広いという点、またテニス人口が多く、柔道や剣道の活動をしている学校は少ないなど。それらがどのようなメリットやデメリットがあるのかによって考えていかなければならないのかなと思います。

委員)

東西に広いという面で、飯南、飯高地域が非常に過疎化で生徒数が少なくなっている。そこが地域移行になると余計にハンデを背負うことになると思う。今、日本全体の課題は地域おこしや過疎化ですが、「田舎に住んでいることがこんなにメリットがある」ということを広げていくことが課題解決になるのに、またこのことで、「やはり田舎では活動ができない」とならないような視点を持って、しっかり考えていって欲しい。

委員)

松阪は外国籍の子が多い。しかし日本語が上手な子もいればそうでない子も居ます。毎日のコミュニケーションが大事で、毎日会う先生とならうまくコミュニケーションをとれるが、土日しか会わない指導員とうまくコミュニケーションがとれるのか心配です。また大会に出ることを目標にして活動しているのに、いろんな中学校を交えてしまうと、選抜の一握りの子しか大会に出られないという懸念があります。すると、勝つだけでなく目標を達成する喜びや、子どもたちの活動の居場所という面で確保ができるのかと思います。

委員)

地域移行を進めていくということは、学校はもちろんですが、生徒や保護者、それを受

けていく地域に対して松阪市として、きちんと説明をして周知を図っていく必要があると思います。これからの話かと思うが、今後進めていくとすれば、どのように周知や説明を行っていく予定ですか。

事務局)

学校への周知については現在のところ、学校の先生や教職員のみとなっています。今でも地域の方から「これからどうなるのか」という不安の声を聞いています。そのため今後部活動の地域移行を進めていくにあたっては、生徒や保護者のことを考慮し、不安にならないように何らかの周知をしていかなければならないと考えていますので、国や県の通知を元に、適切に学校や保護者、地域に、時期も検討しながら周知していきたい。

市長)

これらの前提となる部分として、部活動を指導している教員は実際にどれくらい時間をとられているのですか。部活動の担当者になると、土日も含めてどのような生活になりますか。

事務局)

一例として、陸上競技の場合、平日ですと 15:30 に学校が終わり、下校時間の 17:30 くらいまで 2 時間活動がある。当初は部活動のガイドラインがなかったので、平日 4 日、土曜日練習で日曜日が大会でした。担当教員は部活動が終わってから自分の仕事の教材の準備、生徒指導や家庭訪問等を行い、19 時～20 時になることが多かった。土日は練習と大会の引率を行う。冬季休業の場合は 12/30～1/3 は休みでしたが、前半は合宿をしたりしていました。私より時間が無かったのは教育長で、野球など団体競技はもっと大変かと思います。

教育長)

私の場合は、毎日いろんな練習機会があり、子どもが学校で練習する以外にも。例えば卒業生が来たり、地域の方に来ていただいたりすると、土日の活動が必要となる。過去に中部中や明和中学校で部活動を担当していた時、学年で 25～30 人くらいおり、中学校の野球は全員が 4 番でエースを夢見て入ってきます。するとみんなを公平に試合につかってあげなければいけない。年間 100 試合くらいしました。子どもが自己肯定感を持つには、試合で使ってもらい、家で家族に「今日試合でこんなことがあった」と話したり、家族が試合を見に来て応援してくれることは子どもにとって良い経験となります。だから土日はほとんど月 3～4 回試合を行っていました。現在では、そうしたことは良くないと承知しています。ただ、子どもの卒業アルバムに載せる感想文を書かせた時に、8 割程度の子が部活動のことを書いてくれていました。子どもが中学校生活を送るなかで部活動の持つ教育的な意味は大きいのかなと思います

市長)

松阪市のこれからの体制の構築について補足することがあれば説明をお願いします。

事務局)

先ほども体制の構築については少しお話させていただきましたが、いろんな形があります。拠点型等のほかに、スポーツ団体がコーディネーターを雇って活動する方法など、今後、教育委員会として、市として考えていかなければならない課題と思います。大まかに言うと国はコーディネーターの配置や指導者の報酬等を賄うための予算として約 88 億円の予算を計上しているが、R5 年度からどのような活動したら良いのかを検討していかなければならないと思います。これは大きな課題で、県内でも全国的にも、同じ形でやっていくわけではないので、子どもたちがみんなスポーツや文化部活動に参加できるように、松阪市に合った体制を作るためにも、準備委員会や関係団体を委員とした検討委員会、また教育改革推進会議の中で協議したりするなど、市としての方向性をこれから検討していく形になるかと思います。

市長)

今説明がありました。これから検討を開始するという話ではありますが、委員の皆さんからは、検討するならこういうところを考慮して欲しい、といったご意見をいただきましたと思います。

委員)

休日のみ地域移行となった場合。平日が例えば教職員で休日は地域の指導者となる。例えが適切か分かりませんが、スポーツのプロ選手になったような子が、自分の原点は中学校や高校の指導者であるケースがよくあるが、どちらの指導者のいう事を聞いたら良いのか、などの混乱が予想されると思います。これに関してどのような対応をしていくかは重要なポイントになると思います。そのあたり考慮していただきたい。もし何か対策を考えてみえたらお聞かせください。

事務局)

専門性のある先生が学校に居た場合は、そのまま土日も活動できるように、実際やりたいという先生も居ます。その時は兼業兼務というやり方もあり得ます。平日は部活動をしているので、例えば先ほど話にあった、外国籍の子が居るある学校では「国際部」というのを平日活動している。しかし、土日は違うことをすることになるかもしれない。委員が言われたように、専門技術的な指導するにも先生と地域の連携というのは大事で、地域の方が来るときは研修をするなど、きちんと体制を整備していく必要があると思います。

委員)

休日と平日で別になるとのことだが、平日に参加している子どもが、土日は全員が参加できるわけではなくなるかもしれない。都会では、サッカーなどは特にスポーツクラブ

が発展している。そのため小学校の時に割と優秀な子が学校の部活動ではなく、スポーツクラブに行くことがある。すると学校でサッカーをしている子たちと、学校ではやっていないがスポーツクラブに行っている子たちとの間で、いじめの対象となることもあると聞きました。もし地域移行となった場合に、休日に参加できない子が疎外されるなどの懸念があります。そうした部分もフォローしてあげて欲しいと思います。

市長)

こうしたことは課題として十分認識して取り組んでいただきたい。

委員)

先ほどもありましたが、生活困窮の方や母子、父子家庭の子もいる。今でも中学校の部活の送迎は親がしている。しかし人の子供も乗せていく怖さを感じると多くのお母さんたちの意見を聞いている。土日に関長い距離を走ることになるが、民間になるとお金がかかる。生活が困窮していない方も、送迎に費用負担があるのなら、もう参加しないという人もいる。すると子どもたちはやりたいと思ってもできないケースが発生し、子どもたちの居場所が無くなってしまう。そこを重視していただきたいと思います。もう一つは、例えば商業高校では部活推薦がある。部活動で「あなたは頑張ってきました。」ということで推薦してくれるのが学校なので、進路にも影響するのではないかと。そうしたことも考えていただきたいと思います。

市長)

特に費用面で生活が苦しい家庭の話がありましたが、機会均等の話。お金を取るという事になると必ず出てくる話で、クリアしていくべき大きな問題です。認識は既にしていただいていると思いますが、特にこの点を考えていただくというふうにお願いします。

委員)

まず1つは、部活動の地域移行は非常に課題が多いので、拙速に進めてはいけないと思います。国の示す期限のこともあるが慎重に。この問題は、教職員の負担のいかに減らすかというところが発端なので、教職員にとって良い案が出てこなければ意味がない。だからまず教職員の意見をしっかり踏まえた体制作りをすべきと思います。そのうえで専門家等の意見も聞いて進めて行って欲しい。これはなかなか難しいという印象。指導の一貫性のことにしても、以前の経験で、高校野球の経験がないのに指導することになったことがある。その際に地域の方が指導の補助を申し出ていただいたが、うまくかみ合わなかったこともあった。教職員が信頼できる指導者ならすごく助かるが、単に指導者をつけたらから良い、という単純な話ではないと思います。

市長)

確かにそう思います。国全体の話ではありますが、国もまだ詳細を示せずにいるというのが実態で、この先まだまだ国を挙げての議論になると思います。ただ、教員の働き方

改革をやっていかないと教員のなり手がなくなる。どこかでは折り合いが必要になってくるため、今後どうしていくか引き続き研究をしていく必要があります。今は各自治体がそれぞれ情報収集にとどまっている状態と言えます。先ほど説明があったように三重県でも全国でもほとんど事例がない。おそらくこれは小さい市町村の方がやりやすい。松阪市のように広域で 11 も中学校があるとそうもいかない。まずは研究をしていってそのうえで議論をしていきたい。部活は教育か否かという根本的な話であるような気もするので、ここは慎重に進めていきたい。今日も委員のみなさまからいただいた指摘に関して、さらに教育委員会は検討していただきたい。

2. その他

・みえ松阪マラソンについて

市長)

それではその他の項に移ります。一昨日開催させていただいた「みえ松阪マラソン」について、事務局から報告をいたします。

事務局[スポーツ課])

では、12月18日(日)に開催した「みえ松阪マラソン 2022」について報告いたします。フルマラソン 6,584 名をはじめ、2.9km、10km のファンラン、7.4km の応援ウォークなど、計 8,000 名を超えるランナーにご参加いただきました。大会の結果は、男子の 1 位が招待ランナーの川内優輝選手で 2 時間 16 分 31 秒、女子の 1 位は同じく招待ランナーの兼重志帆選手の 2 時間 36 分 53 秒でした。寒く、そして風の強い厳しいコンディションでしたが、完走率は 97.5% と高く、ランナーの皆さまからは大変高い評価をいただき、ぜひ来年も参加したいとの声を多くいただきました。「日本最大級！走る仲間のランニングポータル RUNNET」における本大会の総合評価は、現在 80.1 ポイント。2022 年大会の平均ポイントが平均 69.7 ポイントです。そして 12 月に全国で開催されたフルマラソン大会 29 大会中、現在ランキング 5 位に位置しています。なおトップ 5 のうち、初回開催は松阪だけであり、「奈良マラソン」、兵庫の「加古川マラソン」や、沖縄県の「NAHA マラソン」など、全国屈指の人気大会が上位を占め、どの大会も 10 年をはるかに超え、30 年を超える歴史のある大会も少なくありません。特に評価が高かったのは、32km 地点における、阿波曾蛸路トンネルの特別イルミネーション。そして、松阪を含め三重の食を堪能できた給食ポイント、いわゆるエイドステーションです。川内優輝選手も過去約 600 回の大会に出場してきましたが、あのようなトンネルの演出は初めてで、全体を通して素晴らしい大会で来年もぜひ参加したい、とのお言葉をいただきました。その他には、ボランティアの中学生たちの気持ちの良い対応や、寒い中子どもやお年寄りが沿道で一生懸命に応援してくれたなど。全体を通して心のこもったおもてなしあふれるあたたかい大会であったとのお言葉をいただいています。なお医療、救護の状況については、緊急車両が 2 度出動し、ランナーと沿道で応援をいただいている方の救護に

従事しましたが、お二人ともその日にご帰宅され、大きなけが等はありませんでした。しかしながら、荷物預け袋が小さいなど運営における課題も多くあり、さらにマラソン当日は、市内に大規模な交通規制を行い、大変なご迷惑をおかけしました。今大会の成果や反省点を踏まえ、次回の開催につなげるための改善を行い、みなさまに喜んでいただける大会となるよう、取り組んでいきたいと考えています。最後に、協賛企業のトップの方に、次のようなお言葉をいただきました。「早朝、フィニッシュ会場に向かう車から市街地の様子を見ると、松阪のまち全体が新しいことにチャレンジするワクワク感のようなものが感じられた。このような雰囲気を感じるのは初めてのこと。まち全体が元気になるような気がした。」まさに私どものめざす『スポーツと運動したまちづくり』を具現化するような大会、そのような大会にしていきたいと思っています。今後は本大会のもたらす経済波及効果や市民への健康増進度合いなどの分析も行っていきたいと考えています。

市長)

ご報告は以上ですが、感想やご質問等ありましたらお願いします。

委員)

みえ松阪マラソンに、私と同じ年の65歳で、退職後60歳かマラソンを始めてフルマラソン10回目という四日市の方が来てくれた。走り終わってから食事を一緒にしたが、非常に喜んでいました。1番良かったのはトンネルのプロジェクションマッピングとのこと。マラソンコースにトンネルなんてと思っていたが、強風のなかトンネルに入ると風が穏やかになり、子どもたちが応援してくれ、本当に癒された。あれは良かったと褒めてくれていました。うちの孫が幼稚園であれに出ており、レース中だから見られないと思っていたが、終わってから15時以降なら一般の人が見られることになっていたようで、そうやって家族にも見てもらえる取り組みは良かったと思います。沿道の応援も意外と途切れずに応援してくれており走りやすかったとのこと。あと、総合運動公園で着替えようと思ったら、屋内の更衣室がなく、外で寒いなか着替えるしかなかったのが辛かったということでした。

委員)

現場を櫛田の方で見させていただいたが、テレビでトンネルの様子を見たときに、発想の転換でこのようなすばらしいことができるのだなと思いました。市民の方の不満な点としては、やはり交通規制と言われていましたが、これは何回も続けることでその地域の方が、逆に考えてくれると思うのでぜひ続けて欲しい。大会費用の問題があると思いますが、できるだけ企業に協力していただけるようにしていただけたらと思います。

委員)

私も友人がご夫婦で走られて、ゴール後に自宅にお招きして食事をふるまってお話を伺

いました。お子様に恵まれていないご夫婦だが、トンネルで子どもたちの映像を見たときに嬉しくて感動されたとのこと。コース全体を通して子どもたちもたくさん応援に参加しており、その応援もとてもあたたかみを感じたということでした。交通規制はある程度致し方ない。他の委員も言われましたが、これを続けていくには、費用の工面をどのように考えていくかということかと思えます。教育という面だけでなく、こういったところでそこをうまく連携しながらやっていくことが、今後重要になってくるのかなと感じています。

委員)

私も友達が走られて、とても寒かったが、楽しくて良かったとのことであった。私たちみたいな出場しない人も楽しめる場所、もちろんそれも準備されてみえましたが、もっと身近に、いろんなところにあって、子どもを連れていけるところがあると良かった。自転車で伴走するのも面白くて、子どもと一緒に伴走したいと言っていたが、伴走しながら食べ物を食べたり、また他県の子たちと一緒に伴走できたりするなど。松阪らしく、いろんな場所があると面白かったかなと思うので、ご検討いただけるとありがたいです。

市長)

最後の登り 400m については、川内選手が、「記録に残る大会なのか、記憶に残る大会なのか」という意味で、最後の坂道はすごく記憶に残った」と言われてみえました。他になければ事務局へお返しします。

事務局)

次年度の総合教育会議も予定しておりますが、現時点で開催日は未定となっております。開催日が決まりましたらご連絡を差し上げますのでよろしくお願いいたします。

市長)

それではこれを持ちまして令和 4 年度第 1 回松阪市総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆さまありがとうございました。

《16 時 15 分 終了》